

# ITによる経営の効率化

## ビジネス全体の課題解決に主体的に貢献するIT。

執行役員 業務開発部長

矢澤 篤志



かつては事務処理の効率化が中心だったITの役割は、コンピューターの性能向上とインターネットの進化により、今日では経営やビジネスに主体的、戦略的に貢献するようになっています。具体的には、サプライチェーン全体の効率化や、経営情報のグローバルかつスピーディな集約と可視化、社内コミュニケーションのインタラクティブ化などが挙げられるでしょう。

企業体質の強化に取り組むことは企業にとって最重要課題のひとつです。カシオでは業務改革とITの活用を表裏一体で推進し、市場変化を常にキャッチアップしながら、生産から販売までを包括的にマネジメントする体制を推進しています。システムは社内で構築する“自前主義”をとり“カシオのあるべきIT像”を全世界のグループ会社とも共有しながら全体最適なシステムを構築しています。

ITは技術の進化とともに、使い方も変わるものです。業務の迅速化や競争力の強化、環境負荷の低減など、現場が抱える課題を抽出することは無論重要ですが、今日、企業の強い競争力となるのは、それをどう変えていくかという手段の先進性です。業務開発部のスタッフが経営的な発想で事業全体をとらえ、一歩先駆けた技術の適用でその課題を解決していく。そのことが経営のスピードと効率性を高めることに大きく寄与すると考えています。

### 標準システムによる経営の「見える化」

購買・販売・会計などの基幹業務を効率化するための情報基盤として、ERP（Enterprise Resource Planning）と呼ばれる統合システムの導入をグローバルに展開してきました。

従来は拠点別・事業別で異なっていた業務とシステムを徹底して標準化し、統合することで、企業活動全体の可視化による迅速な経営意思決定の実現に貢献しています。

ERPで一元管理されている販売・在庫情報は、市場における販売予測情報と連携させることで、お客様が求めている商品をお客様が求めているタイミングで確実にお届けするための生産計画の立案に活用されるとともに、在庫効率の向上による棚卸資産の低減など、サプライチェーン管理の大幅な改善効果を生み出しています。

また最近では、ERPの統合システム基盤から、全社で共通に利用できる機能を取り出して部品化し、それらを組み合わせお客様視点で再構築できる技術を導入。これによりシステムの付加価値向上に努めています。事業環境の変化に対して迅速かつ柔軟な対応が可能なシステム構造の実現は、ITがビジネスに貢献するために不可欠な取り組みと考えています。

### CRMによる営業活動支援

インターネット技術を駆使した業務支援システムによって、直感的でわかりやすいインターフェイスを提供し、従業員各人がより生産性を高め、創造的な業務に打ち込めることを目指して改善を続けています。

営業部門向けには、営業活動の支援システム（以下CRM: Customer Relationship Management）を自社開発しています。

多くの営業担当が利用するシステムなので、使いやすさにも徹底的にこだわり、入力の手やすさ、情報の探しやすさなど、最新のWeb技術を駆使して、市販のパッケージでは考えられない「使い勝手の良さ」を実現しています。このシステムを活用することにより、本部と現場の連携や営業活動が効率化され、さらに販促活動や商談活動のノウハウ共有により、さらなる営業力の強化を図っています。

### 基幹サーバの統合と災害対策

グループ全体の基幹サーバの統合を推進しています。統合によって、今まで個別に投資されてきたサーバコストの抑制が可能となり、集中化によるサーバ運用の効率化も図れます。さらに統合サーバを強固なデータセンターへ設置することで、全体のセキュリティ強化にもつなげています。

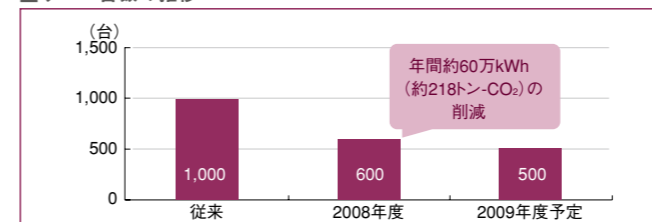
国内だけでなく、中国、アジア拠点の統合も推進しており、2009年3月時点で18台の基幹サーバの統合が完了しました。

基幹サーバの統合ではサーバを2台に分散し、場所の離れた2カ所のデータセンターに配置しています。1カ所が地震などで稼働できなくなった場合には、もう1カ所ですべての基幹システムが稼働できるようにすることで、万一の事態に備えています。

### グリーンITによるCO<sub>2</sub>の削減

基幹サーバの統合だけでなく、その他の業務用、部門サーバの統合にも取り組んでいます。これらのサーバは台数も多く、統合前はグループ全体で約1,000台ものサーバがありました。これらのほとんどが年中無休で稼働し続けるサーバであり、消費電力量（CO<sub>2</sub>排出量）も軽視できないものとなっていました。

■サーバ台数の推移



そこで、1台のサーバ上で複数台分稼働させる「仮想化技術」を活用し統合していくことで、サーバ台数を大きく減らし、消費電力の削減を実現しています。

2008年12月までにサーバ400台分の統合が完了しましたが、これは年間約60万kWhの電力量削減、約218トンのCO<sub>2</sub>削減に相当します。2009年度中には500台分の統合を完了しサーバ台数を半減させ、累計で年間75万kWhの電力量を削減する予定です。

また、2009年3月にはデータセンターの空調機を省エネタイプに切り替えることで、年間約82トンのCO<sub>2</sub>削減を見込んでおり、今後も「グリーンIT」に積極的に取り組んでいきます。

### 購買システムによるコストと環境負荷低減

事務用品・OA機器・ソフトウェア・生産系消耗品などの間接材の購入について、専用の購買システム「CATS」を構築し、国内主要グループ各社に導入しています。従来各社まちまちであった購入商材・購買業務手順を標準化し、サプライヤーとの価格交渉を購買推進部が一括して行うことにより、グループ全社の購買コストの低減を目的に構築しました。また商材の検索、購買申請および上司の承認、サプライヤーへの注文、物品の受領処理をWeb上で行えるため、業務効率の改善だけでなく、発注書面などの紙使用量の削減にもつながっています。

また、画面上の商品カタログではエコ商品の表示を明確にし、ユーザーがその商品を選択しやすい工夫がしており、グリーン購入促進の一助にもなっています。



CATSの画面。エコ商品の表示がわかりやすくなっている。

### ISMS取得による内部統制の強化

カシオ計算機の業務開発部（情報システム部門）とカシオ情報サービスは、2008年2月、より質の高い情報セキュリティの維持・向上と金融商品取引法対応における内部統制整備を目的として、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際規格である「ISO/IEC27001」の認証を取得しました。

ISMSは、企業や組織が自身の情報セキュリティを確保・維持するために、ルールに基づいたセキュリティレベルの設定や、リスクアセスメントの実施などを継続的に運用する枠組みです。設定目標と情報資産のリスクアセスメントに基づいた管理施策を実施し、情報資産の適切な管理を行うためのルールの周知徹底などを図ります。実施状況は定期的な点検や監査などで確認し、問題点を速やかに是正・改善しながら、セキュリティの向上につなげています。今後も当活動を通じて、内部統制を一層強化し、グループ全体のさらなるセキュリティ強化を推進します。